

丙37の一部反訳（37分25秒～の原告池田修一の発言）

丙37は、平成28年3月16日のヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状に関する厚生労働科学研究事業成果発表会（本件成果発表会・甲3）における発言を録音したものである。

37分25秒～40分27秒 原告池田修一の発言

「で、そういうなかです、私たちは、疾患感受性遺伝子というのがあるんじゃないかということで、今HLAのジェノタイプというのを検索しています。このHLAというのは白血球の抗原として、いろんな膠原病になりやすさとか、免疫反応の応答しやすさ、というようなことを出しているというのをこのHLAの型番ということです。そういうなかで鹿児島大学は脳症状を訴える人のHLAを調べてみたところですね、19人中16人でDPB1*05:01というこの型の人非常に多かった、84%だった。で、日本人の頻度は40.7%ですが、日本人の平均頻度に対して倍以上の頻度で出るということでした。で、私は信州大学で14例で調べてみるとですね、やっぱり71%の人がこのDPB1*05:01というHLAの型を持っているということですね。これが何を意味しているのか、日本人の通常の頻度の倍以上だということで、このHLAというのは民族によってこの頻度が随分違っていてですね、この日本を含む東アジア、この民族はこのHLAのDPB1*05:01という頻度が非常に高い、それに対して欧米人はですね、この頻度が非常に低いということなんです。こういう遺伝的なバックグラウンドが、ワクチンを打った副反応の出やすさに関係しているかもしれない、ということで、現在ですね、150名を対象にこの解析をですね、もっと詳しくやっつけよう、と今やっつけているところであります。

最後がですね、こうした病態解析のための動物モデルということなんです、このNF-kBp50を欠損したマウス、こういうのをノックアウトマウス、ある遺伝子をつぶしちゃったマウスをノックアウトマウスというんですが、これは自己免疫を起こしやすい個体ということなんです、このマウスにですね、インフルエンザワクチン、B型肝炎ワクチン、子宮頸がんワクチン、そして単なる生食を打つとですね、だんだん9ヶ月から12ヶ月、1年くらいして脳の海馬と呼ばれている記憶の中核のところに、このHPVワクチンを打ったマウスだけ、こういう異常抗体がついている。すなわち、脳を攻撃する異常な抗体が、このマウスにはできたということがわかりました。現在、その抗体の性状を詳しく分析しているところなんです、同時にこのマウスですね、このマウスですね、こういう皮膚、足のそっけい（鼠径）の皮膚の中の神経、こういうところですね、これを電子顕微鏡で見るとですね、皮内の神経、こういうものですが、どの神経も壊れている。だからこのマウスは脳と末梢神経とを同時に障害を受けていそう。」

平成30年1月15日

反訳作成者： 弁護士 藤本英二

